

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域の様々な人々と連携・協働し、夢の実現をめざして本気で挑戦し、自ら考え行動できる人材を育てる学校をめざす。

- 1 確かな学力を身につけ、自らの力で進路実現できる生徒を育成する。
- 2 規範意識・人権意識を育み、社会的基礎力（踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）を身につけた人間を育成する。
- 3 外国語教育、国際教育のさらなる充実を図り、グローバル化の進む21世紀を多様な人々と共創できる人間を育成する。

2 中期的目標

1 確かな学力を身につけ、自らの力で進路実現できる生徒を育成する。

(1) 「わかる授業、充実した授業」をめざして授業改善に取り組み、生徒の学習意欲のさらなる向上、学習習慣の確立を図る。

ア ICT機器を効果的に活用し、アクティブラーニングなど指導法の工夫・改善をすることにより、「主体的・対話的で深い学び」となる授業をめざす。

イ 1人1台端末を効果的に活用し、学習活動を一層充実させるため、「生徒1人1台端末利活用プラン」に基づき、計画的かつ組織的に取組みを進めていく。

ウ 教員相互の授業見学等を日常的に実施し情報交換を行う中で、授業のコツやノウハウを共有し、授業改善・授業力の向上に取り組む。また、地域の中学校と連携し、相互授業見学を推進する。

※授業アンケートにおける授業満足度について令和6年度も80%以上を維持する。(R1; 80%, R2; 80%, R3; 80%)

(2) 学校一体となって、「学習する体制」を整え、生徒一人ひとりの学習支援、進路実現の支援を行う。

ア 3年間を見通し、1年次から計画的に「学習会」を開催し、生徒のモチベーションの向上を図る。

イ 補習・講習について外部教育産業とも連携しながら、生徒一人ひとりの進路支援体制・学習支援体制のさらなる充実を図る。

※生徒の進路達成満足度について令和6年度においても90%以上を維持する。(R1; 98%, R2; 98%, R3; 98%)

ウ 臨時休業や、感染拡大等により登校できない生徒に対して、オンラインを活用する等、学習支援体制の工夫改善を図る。

2 安全安心な学びの環境を整えるとともに、規範意識や人権意識を育み、生徒一人ひとりに社会的基礎力（踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）を身につけさせる。

(1) 生徒の人的・社会的自立を支援するとともに規範意識を身につける指導体制を確立する。

ア 学年団、生徒指導部の連携を強化し、学校全体が同じ基準でぶれない生徒指導・支援体制の充実を図り、遅刻指導、挨拶や礼儀・マナーの指導に全教職員が継続して取り組む。

イ クラス活動、生徒会活動、学校行事、部活動等を通して、生徒の自主性を重んじながら社会的基礎力を育成する。特に行事の活性化に取り組み、学校生活に対する充実感を高める。

また、部活動を通して、何事にも一生懸命取り組み、継続して活動できる力を育成する。

※保護者向け学校教育自己診断における生徒指導体制への肯定率を令和6年度には70%以上とする。(R1; 51%, R2; 51%, R3; 53%)

※各行事に対するアンケート結果による満足度について令和6年度においても85%以上を維持する。(R1; 90%, R2; 94%, R3; 86%)

(2) 生徒一人ひとりの支援体制・教育相談体制を強化し貧困、虐待、ヤングケアラー等早期発見・把握に努め、専門関係機関と連携しながら学びに向かう環境づくりを図る。

※生徒向け学校教育自己診断における教育相談体制・支援体制の肯定率を令和6年度75%以上を維持する。(R1; 73%, R2; 72%, R3; 70%)

(3) 情報ネット社会における人権侵害やいじめなど今日的課題について学び、1人1台端末の導入を踏まえ、情報リテラシー・情報モラルを高める。

※生徒向け学校教育自己診断における人権教育に関する肯定率を令和6年度80%以上をめざす。(R1; 79%, R2; 77%, R3; 77%)

(4) 自然災害等を含め緊急事態発生時に地域と連携して迅速かつ適切な対応ができる組織体制の整備を図る。

※生徒向け学校教育自己診断における、学校安全に関する項目の肯定率を令和6年度には80%以上とする。(R1; 75%, R2; 74%, R3; 74%)

3 外国語教育、国際教育のさらなる充実を図り、Society5.0時代の到来に向け、グローバル社会に対応できる多様な人材を育成する。

(1) 英語や他の外国語でのコミュニケーション能力のさらなる向上に取り組むとともに、論理的思考力・課題発見・解決能力・探究力の育成を図る。

ア 少人数展開授業、ICT機器等の活用、アクティブラーニング型の授業等により、一人ひとりが主体的・意欲的に取り組む授業を実践しながら4技能（読む、聞く、話す、書く）をバランスよく伸ばす。特に話す力の育成に努める。

イ 姉妹校交流の充実、夏の海外研修、インターナショナルデイキャンプ、これらを充実・発展させ、さまざまな国々との交流等を通じて実践的語学力をさらに向上させるとともに文化や習慣の違いを尊重する精神等を育むように努める。

ウ 第2外国語の成果発表会（校内・校外）を行うとともに、その取組みを地域の中学生や保護者に公開する。

※外国語に関連する科目の授業アンケートにおける授業満足度について、令和6年度においても80%以上を維持する。(R1; 79%, R2; 81%, R3; 81.2%)

第2外国語に関連する科目の授業アンケートにおける授業満足度について、令和6年度においても85%以上を維持する。(R1; -, R2; 89%, R3; 88.2%)

(2) 国際教育、ESD（持続発展教育）に関する行事の充実・発展に取り組み、ユネスコスクールとして国際教育のレベルアップを図る。

※生徒向け学校教育自己診断において、国際教育（ユネスコ活動を含む）に対する肯定率について、令和6年度85%以上を維持する。

(R1; 87%, R2; 82%, R3; 70%)

4 地域・保護者とつながる魅力ある学校づくりと情報発信をさらに推進する。

(1) 中高連携、高大連携、地域連携等を密にし、地域社会に貢献し、地域に必要とされる学校づくりを推進する。

(2) ホームページ・携帯連絡網等を通じて、広報活動、保護者への連絡・情報提供をより充実させる。

※保護者向け学校教育自己診断における保護者への連絡・情報提供の満足度を令和6年度には75%以上とする。(R1; 71%, R2; 62%, R3; 61%)

5 校内運営体制の改善と人材の育成を推進する。

(1) 業務の精選と簡素化を図ると同時に、在校時間等管理及び健康管理を徹底するとともに教職員の意識改革を推進する。

(2) 「育てたい生徒像」を念頭に、本校の将来を見据えながら、教員を育成するシステムの構築を図る。

※時間外業務の年間時数（一人あたり平均）について、令和6年度には1割減（R3年度比）とする。

(3) より確かな人権感覚を身につけ、ハラスメントのない快適な同僚性の高い職場環境をめざす。

ア 職場におけるハラスメント防止に向けて、指針の周知徹底を図るとともに、校内研修を実施するなど教職員の意識啓発を一層図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導等】 学習に関して、「視聴覚機器やコンピュータ、プロジェクター等を活用している」が92%と前年度をさらに上回ったのは、校外外での研修とともに教員間での情報共有が進んでいる結果である。「学習環境面が整備されている」も90%と肯定的回答が高くなっており、CALL 教室をMALL 教室へ改修したことなど、1人1台端末の使用環境の整備を進めることができた。また、学習について「講習など授業以外の学習機会が設定されている」が1年生で81%と高くなっており、学校運営協議会からの意見にもあるように「1年次から進路指導」という対応が実現できている。「進路指導について適切な情報提供やアドバイスをしている」が3年生で89%と昨年度を大きく上回っており、きめ細やかな指導を含め、学校として学習の機会や進路指導を適切に設定していると分析できる。 保護者の「授業がわかりやすく楽しいと言っている」の肯定的な回答は59%と前年度から非常に伸びている一方、否定的な回答が依然として4割近くあることから、「主体的、対話的で深い学び」に向けて、指導法のさらなる工夫・改善が必要である。</p> <p>【生徒指導等】 「学校の生徒指導方針に共感できる」について、生徒の肯定的回答が僅かに改善されたものの、いまだ約半数にとどまっていて学校の指導方針と生徒との意識に乖離が見られる。校則や指導体制について、生徒や保護者の意見を踏まえ、改善を図っていく必要がある。学校行事については、肯定的な回答が70%となり、コロナ禍前のR1年度の56%と比べても大きく伸びた。新型コロナの影響はいまだにあるものの、3年ぶりの文化祭開催をはじめとして生徒が自らの主体性を発揮できる場面が増えたことなどの結果と考えられる。また、生徒会について「積極的に活動している」は過去3年間ほぼ同じ数値(72%)であったが、今回76%であった。後期に1年生が多く加わったことで、さらに活発になった。</p> <p>【学校運営】 本校の特色である「国際教育が充実している」について、生徒の肯定的回答は、前年度の70%から78%に、保護者の「学校の教育方針や国際教育の取り組み」は前年度44%から63%にと回復傾向にある。依然としてコロナの影響を受けているものの、海外研修の再開だけでなく、外部機関とも連携して、取り組みの充実を図りたい。 情報発信については、本校の特色や新たな取り組みについてTVや新聞等で取り上げていただいているものの、保護者への情報提供や校内における情報共有に課題がある。保護者の「HPや携帯連絡網サービスで学校の様子がよくわかる」に対する肯定的回答も57%(前年度61%)と下がっており、ホームページの改修に向け、準備を進めている。</p>	<p>第1回(6月28日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次から進路指導を行うという委員会で提案した意見が形となって嬉しい。 ・一般入試で行きたい大学に行くために教員がサポートしている様子が見てとれる。 ・新しい取り組みを行おうとしている姿勢に感心した。 ・河内長野エリアが少子高齢化しているため生徒の獲得が難しくなっている ・「どのような特色を出していくのか」が大切。 ・集会の様子を拝見するなど、学校の実態を知ることができてありがたかった。 ・自分が通っている学校のプライドを生徒にもたせることが大切。 ・学力向上だけでなく、生徒自ら考えさせるようなしかけを行う。 ・コロナによって外国語を学んで世界で活躍したいと考える生徒が減った。もう一度「国際的な学び」を行う意義を考え生徒に学ばせることのむずかしさがある。 ・地域の課題解決に絡めて学校と地域が連携することは素晴らしい <p>第2回(11月25日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業見学を通じて、子どもが自己表現できる授業のやり方や取り組みが見られてよかった。割と自己表現できている生徒がいた。 ・自己表現できる機会を与えてあげてほしい。「グループから個人に」ということも意識してほしい。 ・コロナ禍でさまざまなことが制限されてきた。グループなどで行う活動や機会が制約されていたために、その仕方が分からない子どももいる。 ・情報モラルや書く力が弱いので、鍛えていく必要がある。 ・進路に関しては社会情勢が絡んでいるという側面が強いのではないかと、社会情勢も踏まえてどのように進路保障していくことが課題。 ・中・高・大学で困っていることが同じ。若い人は自分の能力の範囲でおさまることしかない傾向にあるのではないかと。チャレンジする力が不足している。好きなことをさせてあげることがとても重要。 <p><スクールミッションについて></p> <ul style="list-style-type: none"> ・長野高校の特色としてグローバルの視点があるのでいいと思う。 <p>第3回(2月6日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2月の耐寒行事では普段見られない生徒の面が見られて良かった ・授業を見学した際、生徒たちが見通しをもって学習に取り組んでいるように感じた ・生徒の指導に関して、多様性を認めるような指導にしてはどうか。 ・大学においても時間にルーズな若者がめだつ。遅刻指導などは高校の時から習慣やしつけが大事 ・提出物は、遅れてもいいので出すという習慣を身につけさせることが必要 ・大学に進学すればパソコンが必要になるので高校生の段階から情報関連の知識を身につけさせてほしい ・日々の業務に関して、テスト採点などもICT化すればいいのではないかと。 ・学校自己診断の保護者の回答率が低い。回答時間のめやすを示したり、問題数を記載するなど、多くの方に回答してもらう工夫が必要

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
<p>1 確かな学力を身につけ、自らの力で進路実現できる生徒を育成</p>	<p>(1) 生徒の学習意欲の向上、学習習慣の確立を図る。</p> <p>(2) 生徒一人ひとりの学習支援、進路実現の支援を行う。</p>	<p>(1) アイ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケート(6月、12月)を分析し、改善点を洗い出すとともに「授業見学週間」を設け、教科を越えて情報交換を密に行ないながら、授業改善を推進する。 ・首席と教務部が軸となって、定期考査毎に、「観点別学習状況の評価」について円滑に導入できているかの検証を行う。 ・中学校との相互授業見学システムを継続し、中高連携を促進すると同時に高校における授業の在り方を考える。 ・オンライン委員会が中心となり、定期考査ごとに1人1台端末の導入が「活用プラン」に基づき効果的に活用できているかの検証を行う。 <p>(2) イ ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勉強会・講習・補習を組織的に計画・実施する。 ・臨時休業時や登校できない生徒に対し、オンライン活用による教材提供をするなど学びの保障を行う。 	<p>(1) アイ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートの満足度 80%以上を維持する。[80%] ・生徒の ICT 活用授業の肯定率 90%を維持する。[90%] ・学期ごとに教務部で検証し、改善を重ねる。 ・積極的に授業見学・情報交換に参加する教員率について 80%以上を維持する。[75%] ・端末の効果的活用の好事例研修を3回 [-] <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け学校教育自己診断における「勉強会・講習・補習等」についての肯定率について 70%以上を維持する。[71%] ・オンライン活用による教材提供の満足度 80% [-] 	<p>(1) アイ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートの満足度 82%。学力生活実態調査の結果を踏まえて研修を実施した(○) ・ICT活用授業の肯定率 86%で、効果的な活用に向けて取り組む。(△) ・学期ごとに検証し、大きな課題無く円滑に進められた(○) ・授業見学および研究協議を4回実施。参加教員率 81%(○) ・端末の活用研修を3回実施(○) <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「勉強会・講習・補習等」についての肯定率 76%で、特に丁寧な補習が肯定的評価につながったと考える(◎) ・オンライン活用による教材提供の満足度 74%(△)

府立長野高等学校

2 安全安心な学びの環境整備、規範意識・	(1)規範意識を身につける指導体制を確立する。 (2)生徒一人ひとりの支援体制を確立する。 (3)人権意識の向上を図る (4) 緊急事態発生時の連絡体制の徹底を図る。	(1) ア学年間・生指部の連携を強化し、基本的な生活習慣を確立し、遅刻指導、身だしなみの指導等、組織全体で指導、支援の観点から生徒に対応する体制を整える。 イ感染症対策を継続しながら、体育祭をはじめとする教育活動の実施および各種行事の工夫改善について、生徒会執行部を機能的に動かす。 ・体験入部の実施方法、期間の延長、登録の方法等、生指部で検討し、生徒の部活動継続率上げる工夫を凝らす。 (2)貧困、虐待、ヤングケアラー等早期発見・把握に努め、学びに向かう環境作りを図るために、教員のアンテナを研修により高くする。 (3)新型コロナウイルス感染症に係る偏見や差別を許さない教育を推進するため、総合探究や教科指導においても、情報リテラシー、情報モラルを高める教材を活用する。 (4) 緊急時（休校時含む）の教職員の連絡体制と生徒への連絡体制を見直すとともに、地震、津波、Jアラート等、具体的な例をあげて防災教育を行う。	(1) ア生徒向け学校教育自己診断における生徒指導・支援体制の肯定率 50%以上をめざす。 [46%] イ・行事の満足度を 85%以上とする。 （R3 体育祭 86%文化祭コロナの影響で実施できず） ・部活動継続率 73%以上とする。 [70%] (2)生徒向け学校教育自己診断における教育相談体制・支援体制の肯定率を 72%以上とする。 [70%] (3)生徒向け学校教育自己診断の「人権について学ぶ機会がある」80%をめざす。 [77%] (4)生徒向け学校教育自己診断における学校安全に関する項目の肯定率を 77%以上とする。 [74%]	(1) ア生徒向け学校教育自己診断における生徒指導・支援体制の肯定率 48%。校則や指導体制について、改善を図っていく必要がある。 （△） イ・行事の満足度 88%。様々な制限を設けざるを得なかったが、3年ぶりの文化祭を開催できたことなどが、高評価につながった（○） ・部活動継続率 84%（◎） (2)新たな支援委員会を立ち上げるなどの対応を行った。教育相談体制・支援体制の肯定率 73%（○） (3)「人権について学ぶ機会がある」との回答が 83%。人権を意識して様々な教育活動を行った（○） (4)生徒向け学校教育自己診断における学校安全に関する項目の肯定率 80%（◎）
3 グローバル社会に対応できる多様な人材の育成	(1)外国語でのコミュニケーション能力のさらなる向上に取り組む。 (2)国際教育、ESDの充実・発展に取り組む。	(1) ア・生徒が主体的・意欲的に取り組む授業を展開することで、英語の4技能をバランスよく伸ばす。特に話す力を育成しプレゼン力を高める。 ・第2外国語(独、仏、中、韓)において、共通した教授法の開発に取り組み、中学生に対して出前授業を行う。 イ 姉妹校交流をはじめとする国際交流行事、イングリッシュデイキャンプを含む英語での研修等を通じて、実践的英語力をさらに向上させる。 ウ 第2外国語の成果発表会を校内で行い、外部に公開する。 さらに LETS10 校が参加する国際フェスティバルにおいて前年度以上の成果と達成感をめざす。 (2)校内における国際教育、ESD に関する行事（ユネスコスクールの取組みを含む）について継続して大阪府立大学と連携し、高校生ができる社会貢献事業を行っている。	(1) ア・英語、第二外国語に関する授業アンケート満足度をそれぞれ 82%、85%以上を維持する。 [英語 81.2%] [第2外国語 88.2%] ・中学生による出前授業満足度 70% [-] イ国際交流、デイキャンプ等各行事の参加者の満足度 80%以上を維持する。 [81%] （R3 コロナ禍で対面での交流関係が実施できず） ウ成果発表会の満足度 80%をめざす。 [87%] (2)生徒向け学校教育自己診断において本校国際教育（ユネスコ活動を含む）に対する肯定率 72%以上を維持する。 [70%]	(1) ア・英語、第二外国語に関する授業アンケート満足度をそれぞれ 81.3%、90.2%（○） ・初の試みであった中学生への出前授業は満足度 89%と高評価。生徒は充実感と自己肯定感が得られた（◎） イ国際交流、デイキャンプ等各行事 ※コロナ禍でデンマークの高校生との交流のみ実施し、参加者の満足度 100%（◎） ウ成果発表会の満足度 100%（◎） (2)地域の小学校への出前授業などの新たな取組みを実施した結果、国際教育（ユネスコ活動を含む）に対する肯定率 78%に上昇（◎）
4 ある学校づくりと情報発信	(1)中高連携、高大連携、地域連携等を通じて地域に根ざした学校づくりの推進 (2)広報活動、保護者への連絡・情報提供をより充実させる。	(1)学年、各教科、クラブ単位等様々な形で、市役所、保育所、小中学校・大学・福祉施設等と連携する取組みを継続する。 (2) 広報活動について、ホームページをリニューアルし、学校情報をコンテンツに分けてわかりやすく発信し、更新率を高める体制を整備する。	(1)参加生徒の地域連携、地域貢献の満足度について80%以上を維持する。 [83%] (2)保護者向け学校教育自己診断における広報に関する満足度を65%以上とする。 [61%]	(1)河内長野市歴史PR大使に10名が任命されるなど、総合的な探究の時間を中心とした地域連携の取組みや、市警と連携した放課後のランニングパトロールなど多くの新規取組みを実施。地域貢献の満足度について85%（◎） (2)保護者向け学校教育自己診断における広報に関する満足度57%と低く、SNSの活用やHPの改修など間もなく実現する見込み（△）
5 校内運営体制の改善と人材の育成	(1)業務の精選と簡素化、時間外業務の減少をめざす。 (2)教員を育成するシステムの構築を図る。 (3)より確かな人権感覚を身につける	(1)教職員の負担軽減を考慮しながら、業務の見直しを図り、校務の効率化を図る。 (2)「主体的、対話的で深い学び」の実現に向け、ICTの効果的活用に係る研修等により、全ての教職員の ICT 活用指導力を向上させる。 (3)研修を通して、より確かな人権感覚を身につけ、ハラスメントのない快適な同僚性の高い環境を組織全体で創出する。	(1)時間外業務の年間時数（一人あたり平均）について、前年度比減をめざす。 [8%減] (2)ICT活用指導力に係る研修に対する満足度 80% [-] (3)教員研修に関するアンケート調査において、肯定回答率について75%以上を維持する。 [75%]	(1)時間外業務の年間時数（一人あたり平均）について、前年度比減 2%減（△） (2)ICT活用指導力に係る研修に対する満足度85%（◎） (3)教員研修に関する81%（◎）